

社会教育主事・社会教育士養成における社会教育実習の意義

～愛知教育大学における 2020 年度の実践から～

愛知教育大学 教授 大村 恵

1. 研究の目的

2018 年 2 月に社会教育主事講習等規程の一部が改正され、2020 年 4 月に施行された¹。社会教育主事講習の教育課程に「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」が新設され、社会教育主事養成課程においてはさらに「社会教育実習」が必修とされた。そして、社会教育主事講習修了者は「社会教育士（講習）」、社会教育主事養成課程単位取得者は「社会教育士（養成課程）」と称することができる²。ここに社会教育分野における新たな公的称号が誕生したことになる³。

「社会教育士」という称号が作られたのは、文科省によると「講習及び養成課程の学習成果が社会で認知され、広く社会における教育活動に生かされる」ことを目指しているためだとされている⁴。

2021 年 3 月に、文部科学省総合教育政策局によって開設された「社会教育士」特設サイトでは、「新カリキュラムで身に付ける社会教育の体系的理解や専門性、コーディネート能力、ファシリテーション能力等は、社会教育行政以外の場面でも汎用性があり、そうした学習成果を幅広く活用していただくことを目的に「社会教育士」の称号を付与することとした。」と説明されている⁵。

現在の大学における社会教育主事養成課程を修了した者のうち社会教育主事に任命される者がごくわずかであること、社会教育主事講習においても必ずしも受講者が社会教育主事着任を目的とせず社会教育に携わる者としての研修を目的とする者が多いことからすると、称号の創設は実態に即したものと考えられる。社会教育主事の養成を目的とした社会教育主事講習および養成課程において、新たに社会教育士の養成が目標として明示されたことによって、教育課程に何らかの改変が求められるのかどうかという議論は、今後深めていく必要がある。

そのため、本稿では、愛知教育大学の社会教育主事養成課程の必修科目「社会教育実習」の実践をもとに、社会教育主事・社会教育士養成における社会教育実習の意義を考察するものである。

2. 社会教育主事養成課程と社会教育実習

社会教育実習は、2018 年改正によって、養成課程において必修科目として新設された⁶。この科目は、「社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図る」ことを目的とし、「社会教育施設等における実習」を内容とするとして、次のように説明されている⁷。

ハ. 社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究について

① 社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究は、社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的として、具体の地域課題等を題材とした社会教育事業の企画・立案等に向けた演習や、社会教育施設等における実習等を内容とすることとし、特に、コーディネート能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力の基礎の習得が図られるように留意すること。

② 社会教育主事の職務を的確に遂行し得る実践的な能力を養成するため、社会教育実習を 1

単位以上の必修とした上で、社会教育演習・社会教育実習・社会教育課題研究の一以上の科目による選択必修により3単位以上を修得することとし、計4単位以上を修得することとする。

- ③ 大学においては、必修科目である社会教育実習と選択必修科目である社会教育実習を統合して実施することができること。
- ④ 社会教育実習については、社会教育施設等に一定期間にわたり日勤し実習を行う場合や、宿泊形態により短期間で行う場合、半日程度の実習を数カ月にもわたり行う場合など、多様な実施形態が考えられ、地域や大学の事情を踏まえ、社会教育主事の職務遂行に求められる実践的な能力の養成に効果的な取組を行うよう留意すること。

(別紙2) 社会教育主事養成課程の科目⁸

科目名・単位数	目 的	主 な 内 容
生涯学習概論 〔4単位〕	生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の理念と施策 ・社会教育の意義と展開 ・社会教育に関する法令 ・社会教育主事・社会教育指導者の役割 ・生涯学習社会と学校・家庭・地域 等
生涯学習支援論 〔4単位〕	学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関する教育理論 ・効果的な学習支援方法 ・学習プログラムの編成 ・参加型学習の実践とファシリテーション技法 等
社会教育経営論 〔4単位〕	多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育行政と地域活性化 ・社会教育行政の経営戦略 ・学習課題の把握と広報戦略 ・社会教育における地域人材の育成 ・学習成果の評価と活用の実践 ・社会教育を推進する地域ネットワークの形成 ・社会教育施設の経営戦略 等
社会教育特講 〔8単位〕	社会教育主事としての幅広い視野、社会的関心を持たせるとともに、専門的内容についての理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化と社会教育 ・高齢化と社会教育 ・社会的包摂と社会教育 ・防災・防犯と社会教育 ・同和問題と社会教育 ・青少年健全育成と社会教育 ・貧困問題と社会教育 ・男女共同参画と社会教育 ・特別支援教育と社会教育 ・文化芸術と社会教育 ・生涯スポーツと社会教育 ・地域産業と社会教育 ・情報化と社会教育 ・多文化共生と社会教育 ・健康教育と社会教育 ・人権教育と社会教育 ・環境問題と社会教育 ・キャリア教育と社会教育 ・家庭教育と社会教育 ・社会福祉と社会教育 ・消費者教育と社会教育 ・文化財保護と社会教育 ・地域の歴史文化と社会教育 ・ボランティア活動と社会教育 等
社会教育実習 〔1単位〕	社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設等における実習
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究 〔選択必修3単位〕		<ul style="list-style-type: none"> ・具体的地域課題等を題材とした社会教育事業の立案等に向けた演習 ・社会教育施設等における実習 ・社会教育の課題に関する研究
合 計 24単位		

3. 愛知教育大学における社会教育実習の開設

(1) 2018・2019 年度社会教育実習

愛知教育大学では、全学に開かれた教育課程として社会教育主事課程を設置していたが、2018 年 2 月の「社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会」を受け、2020 年度からの新制度への移行を目指すことになった。その過渡的な措置として 2018 年度より旧制度の科目として、「社会教育実習Ⅰ」を前期に、「社会教育実習Ⅱ」を後期に開設した⁹。開設学年は、教員養成課程の教育課程が過密になり、教育実習と教員採用試験のある 3・4 年生を避け、1・2 年生とした。

授業内容は、2017 年度までの社会教育主事養成課程における科目を再編成して実施した。

前期における「社会教育実習Ⅰ」は、社会教育演習および社会教育特別講義として開設していた経験のある、長野県泰阜村での NPO 法人グリーンウッド主催「夏の信州こども山賊キャンプ」にボランティアスタッフとして参加するという内容で、以下のように実施した¹⁰。

2018 年度 愛知教育大学「社会教育実習Ⅰ」

2018 年度開講計画

	月 日	時 間	教室・内容など
事前指導①	6月2日(土)	09:10~12:20	教室：大学・第一人文棟 2F 教育学演習室 内容：▶実習申込手続き ▶リスクマネジメント
事前指導②	(A) 7月1日(日) (B) 7月7日(土) ※参加するコースによりいずれか選択	09:30~17:30 (09:00 受付開始)	(A) 会場：名古屋短期大学 3 号 311 教室 (B) 会場：名古屋短期大学 1 号館 131 教室 内容：東海エリアのボランティア合同研修会 交通：名鉄名古屋本線「中京競馬場前駅」下車 徒歩 10 分
社会教育指導実践 「自然体験キャンプ」	① 7月21日~24日、 ② 7月24日~27日 ③ 7月27日~30日、 ④ 7月30日~8月2日、 ⑤ 8月02日~06日、 ⑥ 8月06日~10日 ⑦ 8月10日~13日、 ⑧ 8月13日~17日 ⑨ 8月17日~20日、 ⑩ 8月20日~24日、 ※原則として上記 10 コースから 1 コース以上を選択して参加する		事業名：2018 夏の信州こども山賊キャンプ 主 催：NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター 後 援：文部科学省・長野県・長野県教育委員会・泰阜村ほか 実習地：長野県下伊那郡やすおか村 6342-2 グリーンウッド自然体験教育センター左京川キャンプサイト他 https://www.greenwood.or.jp/sanzoku/index.html/
実践報告会	9月5日(水)	09:10~12:20	教室：大学・第一人文棟 2F 教育学演習室 内容：実践レポートの発表・共有および評価

2018.4.13

講師は NPO 法人グリーンウッドの村上忠明氏に依頼した。村上氏が全国体験活動指導者認定委員会が指定認定する自然体験活動指導者（NEAL）の講師資格を持っているため、村上氏が講師を務める社会教育実習Ⅰを履修し、所定の試験を受け、全国体験活動指導者認定委員会（自然体験活動部会）に取得申請を行うことによって NEAL リーダーの資格取得・登録ができる。

2018 年度は愛知教育大学の学部改革により、定員 130 名の教育支援専門職養成課程（心理コース 50 名、福祉コース 20 名、教育ガバナンスコース 60 名）を開講した年でもある。この課程は、教員免許を取得できず、また教育ガバナンスコースが学校事務職など教育関係の公務員養成を目指していることもあり、社会教育主事資格取得への関心が高まり、90 名を越える学生が社会教育実習Ⅰの履修を希望した。しかし、実習実施日程と学生の希望日程の調整により履修できたものは 36 名に留まった。学生の要求に応え、新課程の目的を達成するために、社会教育実習Ⅰの追加開講が認められ、村上講師による 2 講座と豊田市青少年センター長の水野貴宏講師による 1 講座が開講されることになった¹¹。

後期における「社会教育実習Ⅱ」は、前年度まで社会教育演習として開設していた、安城市および NPO 法人おやこでのびっこ安城と連携・協働した「こどものまちドリームタウン」に大人スタッフとして参加するという内容で実施した¹²。

2019年度は、2018年度の授業編成をもとに、一部修正して実施した¹³。

(2) 2020年度の社会教育実習

そして、2020年度より、社会教育主事講習等規程の一部改正による新制度の社会教育主事養成課程を以下のように再編成した¹⁴。

③ 社会教育主事(社会教育士)

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会事務局において社会教育すなわち「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む)」(社会教育法第2条)について指導と助言を与える専門職のことで、また、社会教育主事の資格を有する者が、公民館、青年の家などの社会教育施設の職員として専門的な活動を行うこともあります。

社会教育主事の資格を得ようとする者は大学に2年以上在学し62単位以上を修得し、かつ、大学において文部省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で1年以上社会教育主事補の経歴を有するものでなければなりません。

社会教育主事の授業科目修了者は「社会教育士(養成課程)」と称することができます。

◎ 社会教育主事(社会教育士)の資格取得のための開設授業科目

社会教育主事講習等規程第11条 による科目・単位数		大学における相当科目・単位			備考
科目	単 位 数	授業科目	単位	学年・学期	
生涯学習概論	4	自由 社会教育の基礎Ⅰ	a2	1,2	
		自由 社会教育の基礎Ⅱ	a2	1,2	
		BS 生涯学習概論	a2	1・後	
社会教育経営論	4	自由 社会教育経営論Ⅰ	a2	2,3,4	
		自由 社会教育経営論Ⅱ	a2	2,3,4	
生涯学習支援論	4	自由 生涯学習支援論Ⅰ	a2	2,3,4	
		自由 生涯学習支援論Ⅱ	a2	2,3,4	
社会教育実習	1	自由 社会教育実習Ⅰ	c1	1,2	社会教育実習Ⅰ かⅡを選択し、 どちらかを修得 する。
		自由 社会教育実習Ⅱ	c1	1,2	
社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究	3	自由 社会教育演習Ⅰ	b2	3,4	社会教育実習Ⅰ ,Ⅱは「社会教 育実習」として 選択しなかった 方を、この区分 で選択可能。
		自由 社会教育演習Ⅱ	b2	3,4	
		自由 社会教育実習Ⅰ	c1	1,2	
		自由 社会教育実習Ⅱ	c1	1,2	
社会教育特講	8	自由 社会教育特別講義	a2	2,3,4	
		L 特別支援教育基礎	a1	1後	
		L 外国人児童生徒支援教育	a1	2前	
		MS キャリア発達論	a2	2前	
		L キャリアデザインⅡ	a1	2後	
		MS 金融経済教育論	a2	3後	
		MS 教育情報化概論	a2	3前	
		BS ジェンダー史入門	a2	1後	
		E 生徒指導・進路指導の理論と方法	a2	3後	
		E 道徳教育の理論と方法	a2	2後	

2020年度の社会教育実習科目の開設は、2018・2019年度の科目構成の延長線上に考えていた。前期は村上講師の泰阜村における「夏の信州こども山賊キャンプ」と、水野講師の豊田市における子どもに関わる社会教育の現場にスタッフとして参加する内容の「社会教育実習Ⅰ」を、後期は筆者が担当し、名古屋市白金児童館および前津児童館での「こどものまち」づくりを行う「社

会教育実習Ⅱ」を予定していた。

しかし、2020年1月から拡がった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、「夏の信州こども山賊キャンプ」が開催できなくなったため、村上講師の「社会教育実習Ⅰ」の開講が不可能になった¹⁵。このため、新たな社会教育実習先の開拓が求められることになった。大学としての実習科目自体の実施も危ぶまれたが、教育実習、社会福祉施設実習などを含めて、実習受け入れが可能である場合は実施が認められた。

水野講師には、前期「社会教育実習Ⅰ」の学生受け入れを拡大していただくことと¹⁶、さらに後期にも豊田市総合野外センターを利用した「社会教育実習Ⅰ」を開講していただくことになった¹⁷。また、豊田市総合野外センター所長の中島敬康氏にも子どもの野外活動を支援する授業として「社会教育実習Ⅰ」を後期に開講していただくことになった¹⁸。

さらに、コロナ禍でも受け入れ可能な社会教育実践現場をあたる中で、名古屋市の児童館は、2020年4・5月以降は閉所せず、学生の受け入れも可能であることが判明した。依頼の結果、後期の「社会教育実習Ⅱ」において、白金児童館、前津児童館に加えて、緑児童館、港児童館にも実習を受け入れていただくことができることになった。ただし、白金児童館・前津児童館は「こどものまち」づくりを内容としていたが、緑児童館・港児童館は2020年度においては「こどものまち」を行う予定がないため、土日にスタッフとして実習を行うことになった¹⁹。

(3) 愛知教育大学における社会教育実習の内容と講師の役割

以上の社会教育実習の科目を、内容に即して整理すると以下ようになる。

- 1) NPO 等が行う子どもの野外活動にスタッフとして実習を行う。
- 2) 公民館等が行う子どもの社会教育活動にスタッフとして実習を行う。
- 3) こどものまちの大人スタッフとして実習を行う。
- 4) 児童館のボランティアスタッフとして実習を行う。

2020年度開設科目としては、1)と2)は前期科目「社会教育実習Ⅰ」として開講し、非常勤講師が担当した。一般に、社会教育の施設・団体で実習を行う場合には、大学教員が担当し、実習を施設・団体に依頼するが多いが、本学では、施設・団体の職員で大学教育を担当できる方に非常勤講師をお願いし、事前指導、実習、事後指導の全過程を担当していただいている。

一方、3)と4)は後期科目「社会教育実習Ⅱ」として開講し、本学教員である筆者が担当した。3)における講師の役割は、事前指導、事後指導を行う他、「こどものまち」の企画段階から参加し、土日に行う子どもたちの実行委員会に学生とともに参加し、毎回の実行委員会のふりかえりを学生とともに平日の昼休みに行っている。4)においては、事前指導、事後指導を施設職員と協力して行い、実習期間中は、概ね毎週1回、各児童館を巡回している。

(4) 「社会教育実習Ⅱ」の内容と展開

社会教育実習の内容は各講師に委ねられている。筆者が担当した2020年度後期「社会教育実習Ⅱ」について整理しておきたい。シラバスで示した授業目標、授業計画・方法は以下のとおりである。

授業目標；社会教育実践の計画・実施・総括の全過程に参加することによって、社会教育の実践的課題について追究するとともに、実践的力量の形成を目指す。今年度は、名古屋市昭

和区で予定されている「こどものまち」および名古屋市立児童館の取り組みの計画・実施・総括を通して「子どもにやさしいまちづくり」をめざすプログラムを実施する。

授業計画・方法：名古屋市昭和区の「こどものまち」は、12月19～20日に実施され、その計画・準備は10月31日から12月19日の土曜日に行う。準備は、名古屋市白金児童館を会場とし、当日は昭和区役所で実施するが、必要に応じて学内でも打合せを行う。受講者は、子ども実行委員、児童館職員等と協働して「こどものまち」の計画、実施に取り組み、毎回実践記録を作成する。また、名古屋市立前津児童館、港児童館等の取り組みにも参加するコースを設定する予定であり、参加者の都合のよいコースへの参加が選択できるように考えている。詳しい日程については、10月にオリエンテーションを開催して説明する²⁰。

「社会教育実習Ⅱ」の中に児童館別に4コースを設定し、後期の冒頭にガイダンスを開き、コースの振り分けを行った。各コースの定員は児童館から示された定員であったが、学生の希望数から受け入れ数を拡大するなど、児童館との調整を行い、履修者を確定した。

A：名古屋市白金児童館コース（定員15名；履修者27名）11月7日～12月19日

B：名古屋市前津児童館コース（定員6名；履修者10名）11月1日～12月20日

C：名古屋市港児童館コース（若干名；履修者15名）11月7日～1月31日、内4日間

D：名古屋市緑児童館コース（若干名；履修者20名）11月1日～1月30日、内4日間

事前指導は4コース合同で行い、①実習の目標（200字まで）、②テキストⅡ-2²¹を読んだ感想（400字まで）、③テキストⅡ-3を読んだ感想（400字まで）の3つの課題を語り合うグループワークを行った。

実習は、白金児童館コース、前津児童館コースが実行委員会とこどものまちの当日を併せて7日間と平日昼休みにミーティングを行って情報共有を行った。港児童館コース、緑児童館コースは学生の希望と児童館の受け入れ数を調整して終日4日間行った。緑児童館では移動児童館として公園でのプレーパークを行っているので、4日間のうち1日はプレーパークを経験できるように配慮した。

実習に参加した日には以下の内容で実習記録を翌日までに「まなびネット」（学習支援サイト）に書き込むこととし、その内容はネット上で共有するとともに、受け入れ児童館とも共有した。

1. 活動記録

2. ふりかえり

- (1) 子どもたちの様子（観察と傾聴）
- (2) 関係づくり（対話と協働）
- (3) 働きかけ（目的・方法・効果）
- (4) 感想（発見・疑問・提案など）

そして、実習終了時には、レポートとして、実習のふりかえりを以下の内容で「まなびネット」に書き込み、それをもとに事後指導を各児童館で行った。

ふりかえりに向けて、実習のまとめをしてください。【1600～2000字程度】

- ① 実践の概要；自分が取り組んだことはなんですか？

- ② 関係形成；子どもや大学生、児童館スタッフとどんな関係が作れましたか？
- ③ 課題解決；困ったこと、悩んだことはなんですか？どのように乗り越えましたか？
残った課題は何ですか？
- ④ 成果；気づいたこと、うれしかったことは何ですか？
- ⑤ 今後の取り組み；学んだことを、どう活かしていきますか？

4. 実習記録の視点

「社会教育実習Ⅱ」の実習記録は、実践の記録とふりかえりを目的としている。その視点は事前学習のテキスト学習の中で、次のように示している²²。

(2) ふりかえりシート作成の目的

ふりかえりシートを使ったふりかえりの目的を明示し、スタッフ内で共有することを前提に作成します。目的は、次の3点です。

- ① スタッフの活動をふりかえるため
- ② スタッフ相互の情報を共有するため
- ③ スタッフ相互の活動を学び合うため

①は、支援者としての自分自身の活動をふりかえることです。自分の行動や体験を、文字にして対象化・客観化し、かつシートの項目に支援の視点を示しておくことで、意識的、目的的に実践に取り組むことを促します。

②は、実践の全体像をつかむためという

ことです。支援は一对一の関係の中で展開されることが多く、その場に居合わせなければ状況をつかむことは困難です。一つの事業・施設の中では、同時に、支援者の数だけ支援が展開されています。その全体を把握するために、お互いの実践をつきあわせて全体像を描くことを目指します。

③は、お互いの実践から学び合うということです。お互いの実践を語り合い、聴き合う中で、多面的に考え、自分自身の実践を相対化してふりかえりを深めます。また、日常的にスタッフ間の連携・協働を意識して、支援の課題を共有して一緒に考えたり、課題を乗り越えようとする実践から学びあったりする中で、集団的な支援の質を高めていくこと、さらに、支援者間の関係性の質を高めていくことで、支援者の支援観、スキル、関係性の広がりや深まりを問い、支援者自身の人格形成を支援することも期待できます。

(3) 支援実践をふりかえる視点

支援実践を意識的・目的的に取り組むために、学習の〈目的〉と〈課題〉を次のように整理しています。

- ① 〈子ども理解〉のための〈観察と傾聴〉
- ② 〈子どもとの関係形成（相互承認・相互理解）〉のための〈対話と協働〉

大人スタッフふりかえりシート

月 日 名前

(1)子どもたちの様子はどうでしたか？（観察と傾聴）

(2)誰とどんな関係づくりができましたか？（対話と協働）

(3)誰にどんな働きかけをしましたか？（目的・方法・効果）

(4)感想など自由に書いてください。（発見・疑問・提案など）

※このふりかえりシートは、1大人スタッフの活動をふりかえるため、2スタッフ相互の情報を共有するため、3スタッフ相互の活動を学び合うために、活用します。そのため、記名を前提として相互に印刷・配布・共有しますが、匿名を希望される場合は、事務局にご相談ください。

③ 〈子どもの発達・成長〉を促すための〈子どもへの働きかけ〉

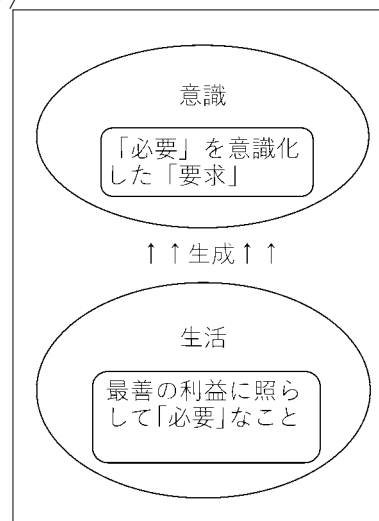
④ 〈実践の改善〉のための〈問題発見と提案〉

まず①は、支援者が働きかける対象として、子どもを理解することです。子どもの生活の実態と、そこから生成されている意識の実態について。また、生活の中で子どもの最善の利益に照らして、改善が求められる生活課題である「必要」(needs)は何か。その「必要」が意識化されて、子ども自身が「こうであつたらいいな」という「要求」は何か。これらをつかむために、子どもの姿を「観察」し、子どもの声に耳を傾けます(「傾聴」)。

次に、あるいは①と並行しながら、②として、支援者は子どもとの関係を形成する働きかけをします。お互いが存在することを認めあう「相互承認」のために、自己紹介をしあい、そして少しずつお互いをわかりあうことで関係性を深めていく「相互理解」を目指します。そのために「対話」し、共同作業(「協働」)をすることによって、関係形成を促進します。

子ども理解と関係形成が一定程度成熟した上で、③として支援者から子どもに対して、発達・成長を促すための働きかけをします。子どもの最善の利益に照らして、生活を改善し、創造することが必要な場合の働きかけも含まれます。その働きかけにおいて、どのような生活と意識の実態があるかという「見立て」のもとに、何を目的にしたのか、どの様に働きかけた(方法)のか、その結果として子どもにどのような影響を与えたのかというように分節化することによって働きかけを客観化することを目指します。

④は、実践を通しての発見、疑問、改善のための提案です。意見交換を通して、実践全体や環境を改善するための切り口になります。



以上のように、事前学習においては、実習記録を書く意味、それを共有し、意見交換をして深める意味について考えることを求めている。

5. 実習記録・ふりかえりレポートの事例

2020年度「社会教育実習Ⅱ」から、白金コースの学生の事例を取り上げておきたい。

(1) 実習記録

次の実習記録は「こどものまち・しろかね」の2回目の実行委員会のものである。子どもたちとの関係性を探りながら、働きかけを試み、自分の行動について振り返っている。

【2020年11月14日】

1. 活動記録

今回のアイスブレイクでは「伝言ジェスチャーゲーム」を行った。全体では、前回の宿題であったお金のデザインを見て投票を行い、5つのデザインを決定した。また、実際に子どもたち一人ひとりがもつ家や道路の大きさを確認した。グループワークでは、前回の5つの班の意見の一覧を見ながら、絶対に必要なもの、やりたいもの、あると便利なものの3つに分類した。

全体での話し合いでは、意見を絞る、統合させるなどして、仕事内容を決定した。

2. ふりかえり

(1) 子どもたちの様子（観察と傾聴）

今回は2回目だったので、前回よりは緊張していない様子だった。お金のデザインに選ばれた子どもは、とても嬉しそうで、両親に自慢したいと話していたのが印象的だった。グループワークで話し合いをしているとき、子どもたちはとても楽しそうな様子で、自らがまちを作りあげるということに楽しさを感じていると思った。また、こどものまち経験者の子どもは、喧嘩が起きることがあるから警察は必要だと思う、と経験をもとに意見を述べていて、大学生にとっても勉強になったと思う。他の人の意見に合わせようとせず自分の意見をはっきりと述べていてすごいと思った。

(2) 関係づくり（対話と協働）

グループワークで、子どもたちとコミュニケーションをとろうと思い学校の話や家族の話などで盛り上がった。話し合いのときは、子どもたちの意見を否定することなく、積極的にコメントする、ほめるなどを意識した。しかし、意見を出すことに長い時間をかけてしまい、意見を紙にまとめる時間があまりとれなかったので、次回からは時間配分にも気を付けたいと思った。

(3) 働きかけ（目的・方法・効果）

自分からあまり話さない子どもに対して、どんなものがやりたいか聞いてみたが「特に…」と遠慮している様子だった。子どもの手元にあった前回の意見の一覧の紙を見たところ、本屋とお菓子屋さんに線が引いてあることに気づき、この2つがやりたいのか聞いてみると頷いてくれたので、「みんなに伝えてみよっか！」と声をかけたが言い出しにくそうに黙ってしまった。子どもの意見を尊重しようと思い、最終的に私がグループに伝えてしまった。今考えると、子どもが自分で意見を言う主体性を奪ってしまったと思う。もっと他によい声かけができたのではないかと、意見が言い出しやすい雰囲気にしたのではないかと反省した。しかし、その後は徐々に「おみくじやりたい」「縁日ってなに？」など控え目ではあるが話しかけてくれるようになった。

(4) 感想（発見・疑問・提案など）

前回同じグループだった子どもが自分のことをニックネームとともに覚えてくれていてとても嬉しいと感じた。まだ話したことがない子どもたちとも積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思う。今回子どもたち同士の交流がみられたのが印象的だった。グループ決めをするときに、グループに子ども一人だけと状況ではなく、子ども2、3人が同じグループにいと子どもたちは安心して活動できると思うので、グループ決めも大切だと思った。自分が日直になったときは、子どもを一人にしないこと、さらに男女比も考えて編成したいと思った。今回の反省点は次回に活かしたい。

次の実習記録は、「こどものまち・しらかね」の2日目・最終日のものである。実行委員会2日目の記録と比べると、一人ひとりの子どもと関係性ができていること、こどものまち当日参加者にまちの仕組みを説明する「学校」を担当した学生と子どもとの協働の様子、子どもがやりたいことを選び取れるような支援、こどものまちの全体を動きをイメージして子どもたちの関わり合いが展開するような支援などを試みていることが読み取れる。

【2020 年 12 月 13 日】

1. 活動記録

午前中は、全体で昨日の反省点を共有し、職員さんに昨日の様子を見ていて気づいたところなどアドバイスを頂いた。その後お店ごとにわかれ、昨日の反省点を改善するにはどうしたら良いかを考え作業を進めた。午後は昨日と同じようにこどものまちがスタートした。最後の振り返りでは、店ごとに良かった点を発表した後、子どもたちが感想を発表した。

2. ふりかえり

(1) 子どもたちの様子（観察と傾聴）

昨日の反省を踏まえていくつかの点を変更したことで、困っている場面や戸惑っている場面が少なくなっているように感じた。子どもたちは働くと同時に、お菓子を買う、ビンゴ大会に参加するなど遊ぶことも楽しんでいた。実行委員の子どもたちは、友達や兄弟と会うと名前を呼び、とても楽しそうに話していた。店員さんとして働くときは、新しく働きに来た子どもたちに説明したり、一緒に仕事を楽しんでいる様子が見られ、今までは大学生にサポートされる側だったが、本番では他の子どもたちをサポートする側で頑張っていて、成長を感じた。学校で仕事をしているとき、P ちゃんが昨日ダンスを教えた子どもが今回も来ていて、P ちゃんのことを覚えていたので、P ちゃんはとても嬉しそうだった。子どもたち同士でも関係づくりができていることに気づき驚いた。

(2) 関係づくり（対話と協働）

午前は P ちゃんがいなかったため、あまり対話はできなかったが、午後からはたくさん話すことができた。担当である学校での説明は、昨日は一回の説明を一人で担当していたが、P ちゃんが今回は説明を前半と後半にわけ分担しようと提案してくれたので、お互いの負担を減らすことができたと思う。時間の区切りについては 10 人程度を待つのではなく、大体集まったと思ったら、説明を始め、さらに説明する内容を少し短くしたのでしっかり聞いてくれている子どもが多かったように思う。学校での仕事が一旦落ち着いたときに、頃合いを見てお客さんとしてお店を回った。本屋・ぬりえ屋に行ったときはぬりえをしに来た隣の男の子に、「鬼滅の中で誰が好きかな？」と話しかけ、煉獄さんと答えてくれた。他の子どもには、「キャラクターの色がわからないから教えてほしいな」と話しかけた。その後たくさん子どもたちが来た。お客さんが 0 人より 1 人でもいたほうが子どもたちが来やすいと思うので、自分がお客さんになることで子どもたちの集客にもつながったのではないかと思った。表札屋さんでは昨日の反省を活かすことができたと思う。昨日のこどものまちは、働く人が圧倒的に多くお客さんが少ないため、子どもたちが働きに来て仕事が少ないため、大学生が困りながら子どもたちのために一生懸命仕事を考えている様子を見かけたので、今回はそのような状態にならないようにと考え、子どもの定員さんがいるときに表札屋さんに行き、子どもたちに説明してもらった。名前を書いた紙が完成し、店員さんのところに持っていったが、ちょうどそのとき働いている子どもたちがいなかった。大学生の店員さんが作ろうとしてくれたが、次に子どもたちが働きに来たときにやらせてあげてほしいとお願いし、仕事を作り出すお手伝いができたと思う。

(3) 働きかけ（目的・方法・効果）

学校での説明の最後の部は女の子一人だけだった。説明が終わった後、次にどこに行けばよいかわからず困っている様子だったので、仕事を探したいか遊びたいかを尋ねた。仕事を探したいと答えてくれたのでハローワークまで連れて行った。仕事と遊びという 2 つの選択肢を用意

することで、子どもが選びやすくなるようにした。仕事が決まったあと、体育室の居住スペースまで案内しブルーシートをひくのを手伝った後、働くお店まで連れていった。すると、「さっき友達があのお店で働いてた！」と話しかけてくれるようになった。

(4) 感想（発見・疑問・提案など）

振り返りで子どもたちが全員が楽しかったと感想を発表していて、こどものまちは成功したと思った。今年は新型コロナウイルス対策のため様々な配慮が必要であり例年通りにはいかなところもあったが、その中でも楽しんでくれたことは、子どもたち、大学生、先生、職員さん皆がアイデアを出し合い、何度も話し合いを重ねた結果であると思う。帰り際に遊戯室に残っていた子どもたちに「こどものまちどうだった？」と話しかけると、「楽しかった！」と答えてくれた。ビンゴ大会で何度もビンゴしたと嬉しそうに話してくれる子もいて、満足感を得ているようだった。「すごいね！私一回もビンゴできなかったよ」とほめながら会話を楽しんだ。その中の一人にお手伝いとして参加してくれた子がいて、今年はお手伝いとして短い間しか参加できなかったから、来年は実行委員として参加したいと話してくれた。他の子どもたちもまた参加したいと話してくれた。今回のこどものまちは本当に楽しんでくれていて嬉しいと感じた。あと一回しか子どもたちと会えないと思うと寂しいと感じるが、次回の子ども実行委員会は今まで以上に楽しみたいと思う。また、子どもたちにこれまで一緒に作業ができて楽しかったことや感謝を伝えたい。

(2) ふりかえりレポート

この学生のふりかえりレポートからは、子どもとの関係性を形成する努力とその結果として関係性が生まれた喜び、「子どもの目線」という子ども理解の気づき、子どもの主体性を尊重するための支援の方法などが読み取れる。そこに、学生自身が実践しその結果について考える支援者・実践者としての思考様式・行動様式の片鱗が示されているのではないだろうか。

1. 実践の概要；自分が取り組んだことはなんですか？

今回名古屋市の白金児童館で行われた「こどものまち・しらかね」という取り組みに参加した。「こどものまち」は子どもたち自身でまちを企画・運営し、働きながらまちの仕組みを学ぶことができる取り組みである。日直となった日は実行委員会の司会として、話し合いをまとめたり、作業の指示を出したりした。まちの中には様々なお店や公共施設があるが、私は学校の担当として、小学4年生のPちゃんのサポートをした。学校では、こどものまちに来た子どもたちに「こどものまち」でのルールや注意事項、どんなお店があるかななどを説明した。

2. 関係形成；子どもや大学生、児童館スタッフとどんな関係が作れましたか？

子どもたちとはグループで話し合うとき以外にも、休憩時間などを使って積極的に話しかけ、学校や家族の話、特技や好きなことなどを話した。話し合いのときは、子どもたちの意見や考えを否定せず受け止めることや、「それいいね！」「すごいね！」というように、子どもの発言に対してリアクションをすることを大切にした。すると、徐々に子どもたちが自分から話しかけてくれたり、「Rちゃん」と名前を呼んでくれるようになった。

大学生とは、学科の壁を越えて様々な人と話すことができた。同じ学科の人も初めて関わった人が多く、交流関係が広がったと感じた。あだ名で呼ぶことで、例えば人材不足のように、どのお店がどのようなことで困っているかという情報を共有し、連携できたのではないかと感

じた。

児童館の職員さんには、様々なアドバイスを頂いた。例えば、アイスブレイクでいくつかのチームに分けるときの、先に子どもたちの名前を呼んでから大学生の名前を呼ぶなどである。企画書を書く際には、学校の仕事内容が漠然としかわからなかったもので、昨年の様子を尋ね参考にした。司会をやる日には、委員会が始まる前に職員さんのところへ行き、その日に決めるべきことや流れについて確認した。事前打ち合わせをすることでスムーズな司会進行につながったと同時に、児童館の職員さんとコミュニケーションをとるきっかけにもなったのではないかなと思った。

3. 課題解決；困ったこと、悩んだことはなんですか？どのように乗り越えましたか？残った課題は何ですか？

悩んだことは、第2回のこどものまち実行委員会で、第1回のときに出されたお店の案の中からどれをやるかグループで話し合ったときである。Qちゃんと同じグループになったが、自分からあまり話したがらない子であったので、どんなものがやりたいか聞いてみたが「特に…」と遠慮している様子だった。Qちゃんの手元にあった前回の意見の一覧の紙を見たところ、本屋とお菓子屋さんに線が引いてあることに気づき、この2つがやりたいのか聞いてみると頷いてくれたので、「みんなに伝えてみよっか！」と声をかけたが言い出しにくそうに黙ってしまった。子どもの意見を尊重しようと思い、最終的に私がグループのメンバーに伝えてしまった。今考えると、子どもが自分で意見を言う主体性を奪ってしまったと思う。もっと他によい声かけができたのではないかな、意見が言い出しやすい雰囲気にしたのではないかと反省した。この反省を活かし、その後は、例えば「AとBだったらどっちがいいと思う？」というようにいくつか選択肢を用意して話しかけるように心掛けた。今後は、効果的な声掛けや言い出しやすい雰囲気づくりに必要なことについて考える必要があると思う。

4. 成果；気づいたこと、うれしかったことは何ですか？

気づいたことは主に2つある。1つ目は、子どもの目線に立って考えることの大切さである。学校でこどものまちの仕組みや注意事項などについてどのように説明するかを考えると、ウーバーイーツは小学校低学年には分かりにくいと思い、ウーバーイーツとは何かについて説明しようと考えていた。しかし、表札やハローワークといった言葉も低学年だと知らない子が多いのではないかとアドバイスを頂き、もっと子ども目線に立って考えるべきだったと感じた。2つ目は、子どもの主体性を尊重すると同時にサポートすることの難しさである。例えば、作業をしていて終了時間が迫ってきているときに、楽しそうに作業しているため続けてやらせてあげたいけれど、時間内に終わるように促さなければならないときに難しいと感じた。

嬉しかったことは、一人で学校の作業をしていたときに、イベントの方に行っていたPちゃんが「Rちゃん頑張れー！」と応援してくれたことである。Pちゃんは学校とイベントを掛け持ちしていて、イベントが一番やりたいものであったためイベントの方で活動することが多く、自分1人で学校の作業することもあった。そのため、Pちゃんがイベントの作業中で学校の近くを通ったときに応援してくれたことや、イベントの作業の合間に学校の方に来てくれたことは嬉しいと感じた。信頼関係が築けたのではないかなと思った。

5. 今後の取り組み；学んだことを、どう活かしていきますか？

今回大学に入学してから、授業としては初めて直接子どもたちと関わる機会となった。学んだことは日常生活の様々な場面で活かせるが、一番近いところでは学校体験活動入門の場で活

かせると思う。学校体験活動入門は毎回関わる子どもたちが変わり、今回の実習のように何度も会って距離を縮めるというのは難しいと考える。そのため、短い時間でも関係づくりができるように今回の実習で得たことを活かしたいと思う。また、講義を受けるときや支援について考えるときなどに、子どもたちと直接関わることでわかったこと・気づいたことなどを思い出し活かしたい。さらに長い目で見ると、学校や教育関係の仕事に就いても就かなくても、子どもと接するときに活かしたいと思う。

6. 小括：社会教育実習の内容編成についての視点と論点

社会教育主事および社会教育士の養成を目的とした社会教育実習の実践は、端緒が開かれたばかりである。今後、実践に即してそのあり方を探っていくが必要になる。その議論のために、仮説的に視点と論点を提示しておきたい。

(1) 支援者としての社会教育士

この場合の支援者とは、「人格形成の支援者」「学習の支援者」を意味する。言い換えれば、住民が、自ら主体者として人格形成および生活創造に取り組む過程に対する支援である。愛知教育大学の場合には、大学の特性に照らして、住民の中でも主として子ども・青年が想定される。人格形成と生活創造は相互規定的であり、よりよい生活の創造に取り組む中で人格が形成され、同時に、人格が形成される中でよりよい生活を創造することができる。人格形成は、それぞれの生活領域における〈労働・職場づくり〉、〈家族・家庭づくり〉、〈友情・仲間づくり〉、〈社会参画・地域づくり〉などの、具体的な生活創造を通して取り組まれ、生活の各場面において、「こんな自分になりたい」「こうなったらいいな」という要求を実現するために、要求の意識化・能力の獲得・社会関係形成など発達・成長の課題に取り組むことが求められ、その発達・成長の目的的な促進のための学習の課題に挑戦する過程を、伴走し、必要な支援を行う総体が、「支援」であり、それを目指す者が「支援者」である²³。

社会教育士もその基本的役割は、「人格形成の支援者」であることが、まず前提となる。

		生活を創造する人格形成の課題領域			
		生活・発達・学習の3つの課題			統合的課題
		〈労働・職場づくり〉	〈家族・家庭づくり〉	〈友情・仲間づくり〉	〈社会参画・地域づくり〉
人格の構造	主体としての人格	労働観 労働者像	家族観 家族像	友情観 仲間像	世界観・社会観 市民像・主権者像
	実体としての人格	職業的能力 自治的能力	家族形成能力 自治的能力	人間関係形成能力 自治的能力	社会参画能力 自治的能力
	本質としての人格	職場づくり	家庭づくり	仲間づくり	地域づくり

(2) 支援者の重層構造における称号「社会教育士」の意味

社会教育労働は、一人の社会教育士、一人の社会教育主事で成り立つものではない。山田定市が、教育労働を、教育労働者（プロ）、教育関連労働者（セミプロ）、住民（アマチュア）によって担われ、その相互の連環の中で全体としての教育労働が編成される重層構造としてとらえているように²⁴、それぞれの地域において、実践において、支援者集団・支援者組織が形成されることが、住民の人格形成を支える基盤となる。社会教育主事が重層構造のハブとしての教育労働者

(プロ)の役割を担うのに対し、社会教育士は、社会教育主事以外の社会教育職員として、「教育、福祉、保健、医療、矯正、更生保護、雇用その他」²⁵などの専門職として住民の学習や人格形成に関わるものとして、また、ボランティアベースで住民の活動に参加する市民・住民として、支援の力量を高めるための研修を修めたものの証しである称号として機能する。

それは同時に、大学において社会教育士の称号を目指して学習することが、より広範な職業の職能を高めることだけでなく、市民・住民としてのあり方・教養を高める教養教育としての意味があるということでもある。

(3) 支援者に求められる権利主体の視点

「人格形成の支援者」には、対象となる住民を理解し、基本的信頼感を形成するための関係形成はその出発点として求められる。「社会教育実習Ⅱ」では、「ふりかえりシート」「実習記録」における「子どもたちの様子（観察と傾聴）」は、子ども理解、住民理解へのアプローチであり、「関係づくり（対話と協働）」は、関係形成へのアプローチとして考えられている。実習において、それを実践しながらふりかえり、学生同士、教員、児童館スタッフ等と意見交換をして深めていくことを目指している。

そこには人格形成とは何か、人間とは何かという基本的な問いが根底にあり、実践を繰り返しながら問い続けることが求められる。

特にそこで考えておきたいのは、主体としての人格、権利主体としての人間像である。「社会教育実習Ⅱ」では、児童館実践の前提として「子どもの権利」が据えられていることを基盤に、子どもの主体性や子どもの最善の利益をそれぞれの実践場面で尊重することを考えあう学習を求めている。

(4) 青年期教育としての社会教育実習

社会教育実習が、社会教育主事講習においては必修化されず、社会教育主事養成課程において必修されたことは、大学教育における実習の意義を重視したと考えられる。日本の大学教育は、青年期の教育としての性格を色濃く持つ。したがって青年期教育としての社会教育実習の意義を明らかにすることは、社会教育実習の科目の性格を吟味するときに必要な視点であると考えられる。

「社会教育実習Ⅱ」の取り組みの中で、青年（ユース）が社会教育実践に参加する意義として、次の3点を考えている。

① 青年が子どもと関わることによって、青年世代としての輝きを発見することができる。

学生が子どもの社会教育に参加する中で、子どもたちが、青年との関わりに大きな魅力を感じている場面に出会うことが多い。それは壮年期以降の大人との関わりでは感じられないものである。おそらくそれは、子どもにはない多彩な能力、青年らしい澁刺さ、壮年期の大人と子どもとの間のマージナルな感覚、自分たちの一歩先の未来を生きている存在としてなどが子どもにとっての魅力として映るのではないだろうか。そして、それは壮年期の大人にとってもまぶしい青年世代としての輝きである。青年同士の関係性の中では見えてこない世代としての輝きが、多世代の関わりの中で自覚され、青年の自己像を豊かにすることができる。

② 青年が信頼できる大人と関わることによって、社会参加のモデル・市民としての生き方モ

デルを学ぶことができる。

社会活動に参加したり、社会教育実践に参加したりする壮年期以降の大人は、職場生活と家庭生活だけでなく、地域生活・社会生活に参加する市民としての生き方を青年に提示する。仕事として社会教育に従事する大人も、仕事を通じて他者や社会に関わる働き方を示す。青年がこうした大人たちと出会うことによって、社会に関わって生きる生き方、働き方について考えることができる。

- ③ 青年が子どもの権利を基盤とした子どもの社会教育活動に関わることによって、参加型社会・子どもにやさしいまちづくりのイメージを獲得することができる。

「夏の信州こども山賊キャンプ」は、参加する子どもたちが最初の「山賊会議」でやりたいことを出し合って自分たちでキャンプを計画し、大学生のスタッフがその計画が実現するように支援する。「こどものまち」では実行委員の子どもたちが、まちをデザインし、あったらいいと思う店や、やりたい仕事、イベントを計画し、それを自分たちがマネジメントをして実現するように大人スタッフが支援する。児童館や放課後子どもクラブでは、子どもたちのやりたい活動や安心できる居場所を、子どもと対話しながら作り出す。こうした取り組みの中から、人権を基盤として自己実現と相互承認・相互理解で構成された社会をイメージし、その実現について考えることができる。

自己像の発見、信頼できる大人たちとの出会い、子どもにやさしいまちづくりのイメージ形成という3点は、壮年期以降の大人にとっても共有できる意義であるが、子どもとして生きてきた生き方から大人としての生き方に組み替える青年の人格形成にとって、特に重要な意義を持つ。本学の取り組みは、青年期教育としての社会教育実習の意義を探究するものにもなるだろう。

¹ 改正に向けて2018年1月～2月に「社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会」が全国で開かれた。東海地区では愛知教育大学において2018年2月15日に開かれた。

² 社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会「資料1-1 社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令案の概要」2018年2月。

³ 2018年改正「社会教育主事講習等規程」には次のように規定された。

第8条 講習を行う大学その他の教育機関の長は、第3条の規定により8単位以上の単位を修得した者に対して、講習の修了証書を与えるものとする。

2（略）

3 第1項に規定する修了証書を授与された者は、社会教育士（講習）と称することができる。

第11条 3 第1項の規定により修得すべき科目の単位を全て修得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。

⁴ 29 文科生第736号「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令の施行について（通知）」2018年2月28日。

⁵ 【文部科学省】今年度から「社会教育士」が新たにスタート！人づくり・つながりづくり・地域づくりの専門人材について知っていますか？

(https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html)

なお、このサイトでは社会教育士について次のように表現されている。

「私たちのまちや暮らしにある様々な課題。その課題の解決に向けて、地域に暮らすみなさんを支えるのが「社会教育士」です。」

「私たちのまち、暮らしには、さまざまな課題が山積しています。たとえば、コミュニティの希薄化、空き店舗が増える商店街、子育てや介護が生む孤立、居場所や出番がない子ども・若者、災害から命を守る防災の備え、国籍の違いや障害の有無などによる分断など…。地域全体で、地域の抱える課題を解決し続けていくためには、

○地域の課題に対する当事者意識を持って、

○より多くの人々や活動が協働しながら、

○これまでの経験や学んだ成果を活かし、工夫しながら参加できる

地域活動や市民活動を豊かにしていくことが求められています。地域を面白くしたい、新たな人ともっと出会いたい、多様な人ともっとつながりながら活動したい、という前向きな気持ちになれるきっかけが、地域にたくさん存在して

いなければ、大人も子どもも、そして地域も成長していくことはできません。

このきっかけにあたる取組を、人々の自由で自発的な学習活動を支援する社会教育という分野では、「学び」と呼んでいます。こうした「学び」を社会のいたるところにたくさん仕掛け、豊かな地域づくりへの展開を支援する専門人材が、社会教育士です。」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/what.html)

- ⁶ 社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会「資料1-1 社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令案の概要」2018年2月。ただし、社会教育実習は、社会教育主事講習の教育課程の科目には設置されていない。

社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令案の概要

資料1-1

改正の趣旨

- 「社会教育主事養成の見直しに関する基本的な考え方について」(平成29年8月社会教育主事養成等の改善・充実に係る検討会)等の提言内容を踏まえ、社会教育主事が人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができるよう、その職務遂行に必要な基礎的な資質・能力を養成するため、社会教育主事講習(以下「講習」という。)*及び大学(短期大学を含む。)*における社会教育主事養成課程(以下「養成課程」という。)*の科目の改善を図ることとする。
- また、講習等における学習成果が広く社会における教育活動に生かされるよう、講習の修了証書授与者は「社会教育士(講習)」と、養成課程の修了者は「社会教育士(養成課程)」と称することができることとする。

改正の概要

1. 社会教育主事講習の科目及び単位数の改善(第3条関係)

学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る「生涯学習支援論」と、多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決等につなげていくための知識及び技能の習得を図る「社会教育経営論」を新設する。

科目	単位
生涯学習概論	2
社会教育計画	2
社会教育特講	3
社会教育演習	2



科目	単位
生涯学習概論	2
生涯学習支援論	2
社会教育経営論	2
社会教育演習	2

<計8単位>

2. 社会教育主事養成課程の科目及び単位数の改善(第11条第1項関係)

「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」を新設するとともに、社会教育主事の職務を遂行するために求められる実践的な能力を身につけることができるよう、「社会教育実習」を必修とする。

科目	単位
生涯学習概論	4
社会教育計画	4
社会教育特講	12
社会教育演習	4
社会教育実習	(選択)
社会教育課題研究	(必修)



科目	単位
生涯学習概論	4
生涯学習支援論	4
社会教育経営論	4
社会教育特講	8
社会教育実習	1
社会教育演習	3
社会教育実習	(選択)
社会教育課題研究	(必修)

<計24単位>

3. 「社会教育士(講習)」及び「社会教育士(養成課程)」の称号の付与(第8条第3項、第11条第3項関係)

講習の修了証書授与者は「社会教育士(講習)」と、養成課程の修了者は「社会教育士(養成課程)」と称することができることとする。

施行期日等

- この省令は、平成32年4月1日から施行する。
- その他、この省令の施行前に大学に在学している者等に関する所要の経過措置を講ずる。

⁷ 社会教育主事講習等規程の一部改正に関する説明会「資料2 社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令案の概要及び留意事項」2018年2月。

⁸ 同上、「(別紙2) 社会教育主事養成課程の科目」。

⁹ 第11回教務企画委員会議題7号「社会教育主事の資格取得のための授業科目の新設について（案）」2018年3月7日。
 なお「改正の理由」中の「社会教育演習」は、「社会教育実習」の誤りとして訂正している。

第11回 (2018.3.7)
 教務企画委員会 議題7号

社会教育主事の資格取得のための授業科目の新設について（案）

1. 改正の理由

平成32年度より社会教育主事講習等規程の一部改正が予定されている。社会教育主事養成課程では、授業科目「社会教育演習」が必修化されることとなっている。

本学社会教育主事養成課程においても、この改正に対応することが求められるが、改正の目的である「実践的な能力」の修得は、本学のカリキュラムポリシーに合致し、「次世代の学校」「チームとしての学校」作りにも資すると考えられることから、授業科目「社会教育演習」を早期に開設し、社会教育主事養成課程を充実する。

2. 改正の概要

(1) 社会教育主事の資格取得のための科目「社会教育演習」に、授業科目「社会教育実習Ⅰ」「社会教育実習Ⅱ」を新設する。

(2) 授業科目新設にともない、「社会教育演習Ⅰ」「社会教育演習Ⅱ」の開設学年を変更する。

(3) 本改正は、在籍学生に適用する。

3. 改正案

科目	授業科目		単位	現行	改正案
				学年・学期	学年・学期
生涯学習概論	自由	社会教育の基礎Ⅰ	a2	1,2	1,2
	自由	社会教育の基礎Ⅱ	a2	1,2	1,2
社会教育計画	自由	社会教育計画Ⅰ	a2	2,3,4	2,3,4
	自由	社会教育計画Ⅱ	a2	2,3,4	2,3,4
社会教育特講 (現代社会と社会教育)	自由	社会教育特別講義Ⅰ	a2	2,3,4	2,3,4
	自由	社会教育特別講義Ⅱ	a2	2,3,4	2,3,4
社会教育演習	自由	社会教育演習Ⅰ	b2	1,2,3,4	3,4
	自由	社会教育演習Ⅱ	b2	1,2,3,4	3,4
	自由	社会教育実習Ⅰ	c1		1,2
	自由	社会教育実習Ⅱ	c1		1,2

¹⁰ 2018年4月26日社会教育主事養成課程ガイダンスにおける配布資料。

¹¹ 2018年7月30日社会教育主事養成課程ガイダンスにおける配布資料。

社会教育実習Ⅰの追加開講について

◎追加開講理由

2018年度前期に社会教育実習Ⅰを開講しましたが、受講希望者が90名にのぼり、しかも、受講希望日程が8月中旬に集中したため、受講者は36名に留まることになりました。

社会教育実習Ⅰ受講希望が大きさに鑑み、2018年度後期に、社会教育実習Ⅰを3講座を追加開講することとしました。後期授業は10月1日から履修登録が始まります。受講可能人数を超える場合には受講制限を行いますので、受講希望者はできるだけ早く履修登録を行ってください。

1. 11月の多文化キャンプ「It' Me Camp」講師：村上忠明（NPO 法人グリーンウッド）
- ▷参加可能人数：5名程度
- ▷概要：フィリピン・ブラジル・朝鮮など外国をルーツに持ちながら日本でクラス高校生（30名程度）とエンパワメントをテーマにした合宿を行う。
- ▷実施日：11月17日（08：00）～18日（20：00）会場：豊田市総合野外センター
- ▷集合解散：豊田市総合野外センター
- ▷事前指導：10月13日（土）と10月27日（土）の2回
時間：各回とも10：00～17：00／会場：Dive.TV オフィス（名駅西口）
- ▷実践報告会：11月10日／時間：13：20～16：30／会場：第一人文棟 2F 教育学演習室
- ▷NEAL 資格：対応不可
- ▷留意事項：上記日程は変更される場合もあるので詳細は適宜教務課を通じて履修希望者へ連絡します。
2. 「冬の山賊キャンプ」講師：村上忠明（NPO 法人グリーンウッド）
- ▷参加可能人数：10名程度
- ▷実施日：①12月26日～12月30日、②12月30日～1月2日、③1月2日～1月6日
（上記日程から1コースを選択して参加）会場：長野県下伊那郡泰阜村
- ▷集合解散：名古屋名鉄バスセンター 4F
- ▷事前指導：11月10日（土）／時間：09：10～12：20／会場：第一人文棟 2F 教育学演習室
- ▷実践報告会：1月12日（土）／時間：09：10～12：20／会場：第一人文棟 2F 教育学演習室
- ▷NEAL 資格：対応可
- ▷留意事項：上記日程は変更される場合もあるので詳細は適宜教務課を通じて履修希望者へ連絡します。
3. 「炮烙山ウォーキング活動の企画実施」講師：水野貴宏（豊田市青少年センター）
- ▷参加可能人数：50名程度
- ▷実施日：10月20日～21日、11月9日～10日 会場：豊田市総合野外センター
- ▷集合解散：愛知環状鉄道 豊田駅東ロータリー
- ▷日程
- | | | |
|--------|-------|---------------------------|
| 10月20日 | 9：00 | 愛知環状鉄道 豊田駅東ロータリー集合後、バスで移動 |
| | 10：00 | 入所式・オリエンテーション |
| | 11：00 | 六所山・炮烙山の概要、施設見学 |
| | 13：00 | 炮烙山ウォーキング |
| | 18：00 | 自然体験応援の企画作り |
| | 22：00 | 就寝 |
| 10月21日 | 9：00 | 自然体験応援の企画作り |
| | 13：00 | 自然体験応援の整理・発表 |
| | 6：00 | 退所式・バス移動 |
| | 17：00 | 愛知環状鉄道 豊田駅東ロータリー到着、解散 |
| 11月9日 | 18：00 | 愛知環状鉄道 豊田駅東ロータリー集合後、バスで移動 |
| | 19：00 | 入所式・オリエンテーション |
| | 19：30 | 自然体験応援の準備 |
| | 22：00 | 就寝 |
| 11月10日 | 8：30 | 炮烙山ウォーキング活動の応援 |
| | 14：30 | ふりかえり |
| | 16：00 | 退所式・バス移動 |
| | 17：00 | 愛知環状鉄道 豊田駅東ロータリー到着、解散 |
- ▷宿泊：寝具あり。1部屋20人定員。トイレ・風呂は共同。
- ▷費用：10月20日～21日〈夕食、朝食、昼食、シーツ；2085円〉
11月9日～10日〈朝食、昼食、シーツ；985円〉

¹² 同上。

¹³ 村上講師による「社会教育実習Ⅰ」は、「夏の信州こども山賊キャンプ」に加えて泰阜村の夏期放課後子どもクラブの開設にスタッフとして参加するコースを新設した。水野講師は、豊田市青少年センターを中心に夏期放課後子どもクラブ等での実習する「社会教育実習Ⅰ」を筆者と共同で担当した。村上講師の多文化キャンプは社会教育特別講義として開講するよう変更した。また、「社会教育実習Ⅱ」は、履修希望学生が増えた結果、安城市の「こどものまちドリームタウン」での受け入れが難くなったため、名古屋市白金児童館と連携協働する「こどものまち・しらかね」スタッフと、名古屋市前津児童館と連携協働する「こどものまちまえづ」スタッフの2コースを編成して実施した。

¹⁴『履修の手引き 2020』2020 年 3 月。

¹⁵「夏の信州こども山賊キャンプ」が中止されたため、冬に延期することとしたが、結果的には冬のキャンプも中止となったため、開講することができなかった。

¹⁶水野貴宏講師の 2020 年 7 月 13 日ガイダンス資料は以下のとおりである。

令和 2 年度 社会教育実習 I ガイダンス

目的 社会教育の仕事を体験的に学び、その意義・役割を知る。

対象 愛知教育大学全学部 1～2 年生及び希望者

日程 A 又は B にて実施

A：9 月 2 日（水）～9 月 8 日（火）定員 40 名

B：9 月 23 日（水）～9 月 29 日（火）定員 40 名

時間 A・B それぞれ 90 分×15 回（大学の履修認定単位 1 に相当）

場所 **豊田市青少年センター** 豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター内

※名鉄豊田線「豊田市」駅下車、徒歩約 10 分 ※愛知環状鉄道「新豊田」駅下車、徒歩約 7 分

若林交流館 豊田市若林東町沖田 124 ※名鉄豊田線「若林」駅下車、徒歩約 2 分

内容

① 水曜日／A：2 日・B：23 日 9：30～16：30／青少年センター 4F 交流室

オリエンテーション・豊田市の社会教育・グループワーク

② 木曜日／A：3 日・B：24 日 13：00～16：00／若林交流館 多目的ホール

小学生対象事業の支援・交流アクティビティ企画ミーティング

③ 金曜日／A：4 日・B：25 日 9：00～12：00／若林交流館 多目的ホール

小学生対象事業の支援・交流アクティビティ企画ミーティング

④ 日曜日／A：6 日・B：27 日 9：00～16：00／若林交流館

「わくわくチャレンジ（仮称）」のアクティビティ企画実施

⑤ 火曜日 A：8 日・B：29 日 9：30～15：00／青少年センター 4F 交流室

実習のまとめ

教員 愛知教育大学非常勤講師 豊田市青少年センター所長 水野貴宏

担当職員 豊田市青少年センター 橋本・山下 若林交流館 押川

¹⁷水野貴宏講師の後期「社会教育実習 I」のガイダンス資料は以下のとおりである。水野講師の担当する「社会教育実習 I」は、合計 3 コマになった。

令和 2 年度 後期 社会教育実習 I ガイダンス

【目 的】自然体験活動の支援を学ぶ。

【日にち】① 11 月 21 日（土）～23 日（月祝）2 泊 3 日 ② 11 月 25 日（水）

【会 場】① 豊田市総合野外センター・少年自然の家 豊田市坂上町朝日山 13-1

② 豊田市青少年センター 豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター内



【対 象】愛知教育大学 1～2 年生及び希望者 20 名

【内 容】豊田市総合野外センター 50 周年を迎え、その歴史と理念を学び、21 世紀の城展望台（炮烙山）へウォーキングする人々への支援アクティビティを企画・実施し検証する。

【スケジュール】

① 豊田市総合野外センター・少年自然の家 -----

11 月 21 日（土）

9：00 愛知環状鉄道「新豊田駅」西ロータリー 集合・バス移動

10:00 入所式・オリエンテーション
10:30 自然体験活動：炮烙山ウォーキング（昼食含む）
14:00 休憩
14:30 総合野外センター施設視察・50年の歴史・21世紀の城について
16:00 休憩・夕食／食堂
18:00 ウォーキング支援アクティビティの企画研修1
21:00 入浴・休憩
22:00 就寝（泊）

11月22日（日）

6:00 起床・朝食／食堂・清掃
9:00 リスクマネジメント・ロープワーク
12:00 昼食／食堂
13:00 ウォーキング支援アクティビティの企画研修2
16:00 休憩・夕食／食堂
18:00 ウォーキング支援アクティビティの準備
21:00 入浴・休憩
22:00 就寝（泊）

11月23日（月・祝）

6:00 起床・朝食／食堂・清掃
8:30 移動（バス・車）
9:00 ウォーキング支援アクティビティの準備
10:00 ウォーキング支援アクティビティの実施（昼食は用意します）
13:00 片付け・移動（バス・車）
14:00 休憩
14:30 退室・点検
15:00 退所式
15:30 出発
16:30 愛知環状鉄道「新豊田駅」西ロータリー バス到着・解散

②豊田市青少年センター -----

11月25日（水）事後研修

13:30 ウォーキング支援アクティビティの企画実施のふりかえり・検証
15:00 終了

¹⁸ 中島敬康講師のガイダンス資料は以下のとおりである。

令和2年度 社会教育実習Ⅰ ガイダンス

目 的・現在の社会教育の取組（青少年育成：主に小中学生）を体験的に学び、生涯学習の視点でその意義や果たす役割を知る。

- ・学校行事の集団宿泊的行事の目標「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や 公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」をめざし、野外活動の計画を立案する。

対 象・愛知教育大学全学部1年生、2年生及び希望する学生 ※定員20名

日 程・内容 小学校5年生が行う「野外学習」（一泊二日）において、以下の実習を行う

①令和2年10月31日（土）会場：豊田市総合野外センター

9:00 集合・バス乗車 場所：愛知環状鉄道「新豊田市」西ロータリー 午前9時集合
10:00 豊田市総合野外センター 入所式・オリエンテーション
10:30 出合いの会、研修の目的、協働研修の意義
12:00 昼食（弁当）
13:00 野外センター施設見学、利用（子ども会）の様子の見学
14:40 野外センターの事業、歴史、施設が果たす役割
16:10 退所式後、バス乗車

②令和2年11月14日（土）から15日（日）まで 会場：豊田市総合野外センター

9:00 集合・バス乗車 場所：愛知環状鉄道「新豊田市」西ロータリー 午前9時集合
10:00 野外活動研修1 野外学習の教育的価値、活動に伴うリスク、救急措置
11:30 昼食（弁当）場内散策

12:30 野外活動研修2 実技研修:クラフト、創作活動、室内ゲーム
 14:10 野外活動研修3 実技研修:野外ゲーム、自然観察、オリエンテーリング
 15:50 野外活動研修4 実技研修:野外炊事
 19:00 野外活動研修5 グループ研修:研修と実技研修から情報整理、プラン立案の準備 21:00 入浴・休憩
 22:00 就寝 総合野外センター自然の家泊
 6:00 起床 準備
 7:00 野外活動研修6 実技研修:野外炊事(災害時の野外炊事)
 10:40 野外学習研修7 野外学習のプラン作成:立案にあたっての事前検討学習会
 13:20 野外学習研修8 野外学習のプラン作成:立案・グループワーク
 15:10 野外学習研修9 野外学習のプラン検討:全体検討会
 16:40 退所式後、バス乗車
 ③令和2年11月28日(土)会場:豊田市青少年センター
 9:00 開会 野外活動計画の発表:グループ発表、質疑応答、意見交換
 10:40 野外活動計画の発表:グループ発表、質疑応答、意見交換
 13:10 研修のまとめとふりかえり:ふりかえりと自己評価
 14:40 閉会后、解散

- ¹⁹ 名古屋市は、全16区に児童館を持ち、すべて指定管理によって運営している。基本的には区社会福祉協議会が指定管理者となっているが、いくつかの児童館は区社会福祉協議会とNPOがコンソーシアムを組んでいる。2020年度に実習を受け入れていただいた4館はいずれもNPOが指定管理者として運営をしている。

白金児童館:NPO法人ふりあん

前津児童館:NPO法人名古屋おやこセンター

港児童館:NPO法人名古屋おやこセンター

緑児童館:NPO法人こどもNPO

なお、名古屋市は2008年に名古屋子ども条例を制定し、子どもの居場所づくり、子どもの社会参加を目指す一環として、「こどものまち」事業に取り組んでいる。2010年に全市的な名古屋子ども☆Cityを開催して以降、児童館や民間団体などにより各区で「こどものまち」が開催されている。

- ²⁰ 白金児童館の「こどものまち・しろがね」は2019年度には名古屋市昭和区役所ホールで実施され、2020年度もその予定であったが、コロナ禍のため白金児童館で実施し、日程も12月12-13日に変更された。

- ²¹ 子ども・若者支援専門職養成研究所編『子ども・若者支援専門職養成ガイドブック ―共通基礎―』(サンプル版)2020年3月。(https://ipity2014.wixsite.com/mysite/2-1)

Ⅱ-2「集団・コミュニティ形成への支援 ―主体性を尊重する支援方法―」、Ⅱ-3「リフレクションの展開、ケース記録などの作成・整理」を筆者が担当し、社会教育実習のテキストとして使用している。

- ²² 大村 恵「リフレクションの展開、ケース記録などの作成・整理」2020年3月。

- ²³ 大村 恵「地域社会教育の実践と課題 ―子どもと青年の人格形成のための支援―」、新海英行/松田武雄(編著)『世界の生涯学習 現状と課題』大学教育出版、2016年。大村 恵「社会教育における子ども・青年の人格形成支援の方法と支援者養成～こどものまち実践における大人の育ち～」『日本社会教育学会年報第56集 子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版社、2017年。

- ²⁴ 山田定市/鈴木 敏正編著『社会教育労働と住民自治 - 地域生涯学習の計画化下』筑波書房、1992年。山田定市「生涯学習計画研究の視角:地域論,労働論を踏まえて」『北海道大学教育學部紀要』71, 1-19 1996年。

- ²⁵ 子ども・若者育成支援推進法第15条。

- ²⁶ 2018年10月の「児童館ガイドライン」改正により、子どもの権利条約の精神にのっとり、子どもの意見の尊重、子どもの最善の利益の優先等について示された。